

自然談話における応答詞「そう」

—その機能および条件・制約—

中島 悦子

1. はじめに

一般に、応答詞の形式には「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」等があるが、自然談話の中で観察して見ると、これらは一様には論じられない。特に「そう」は、談話中の真偽疑問文に対する応答として「はい」や「ええ」とほぼ同じくらいの比率で使われているが（表1参照）、「はい」「ええ」「うん」とは異なり、先行文の性質によっては条件や制約があるようである。なお、「はあ」については今回触れないでおく。

例えば、次の真偽疑問文に対する応答では、「はい」の外「ええ」「うん」は可能だが、「そう」は不自然になる。

1 じゃ、ちょっと、なんか紙ある↑ [04A50f→04L30f指導親親]

はい。（ええ／うん、*そう） [04L30f→04A50f指導親親]

日本語教育でも「そうです」は、次のように真偽疑問文に対する応答として初級レベルの段階で導入されている。

2 あなたは中国人ですか。

はい、そうです。

しかしながら、「そう」は、例1で見たように先行の真偽疑問文によっては使えないこともあり、初級の日本語学習者に「そうです」を教える時には配慮が必要になる。

本稿ではこの「そう」を取り上げ、自然談話の中でどのような機能をもって使われ、どのような条件や制約があるのかを考察する。なお、「そうですよ」「そうですか」等の終助詞のついたものは対象外とした。ただし、「そうですね」については必要に応じて取り上げた。調査資料は「職場における女性の話しことば」（1994）を使用した。

2. 「そう」の機能と条件・制約

応答詞は、談話中の先行発話の性質に応じてさまざまな働きをする。その機能は先行文が応答要求文（応答を要求する文）か応答非要求文（応答を要求しない文）かによって異なる。応答要求文に対する応答としては、(1)疑問文に対する応答、(2)要求文に対する応答、(3)呼びかけに対する応答があり、応答非要求文に対する応答には、あいづち等がある。

表1 応答要求文・応答非要求文に対する応答詞の出現数

先行文	はい		はあ		ええ		うん		そう		計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
I 応答要求文												
(1) 疑問文	75	2.6	9	0.3	61	2.1	355	12.5	92	3.2	592	20.8
① 真偽疑問文	22	0.8	2	0.07	21	0.7	132	4.6	19	0.6	196	6.9
フォ	17	0.6	1	0.03	11	0.4	33	1.1	9	0.3	71	2.5
インフォ	5	0.2	1	0.03	10	0.3	99	3.5	10	0.3	125	4.4
② 付加疑問文	51	1.8	6	0.2	39	1.4	223	7.8	73	2.6	392	13.8
a ね疑問文	40	1.4	5	0.17	32	1.1	162	5.7	55	1.9	294	10.3
フォ	38	1.3	5	0.17	23	0.8	66	2.3	15	0.5	147	5.17
インフォ	2	0.07	0	0	9	0.3	96	3.4	40	1.4	147	5.17
b だろう疑問文	11	0.4	1	0.03	5	0.17	40	1.4	11	0.4	68	2.4
フォ	11	0.4	0	0	4	0.14	11	0.4	4	0.14	30	1.1
インフォ	0	0	1	0.03	1	0.03	29	1.0	7	0.24	38	1.3
c じゃない疑問文	0	0	0	0	2	0.07	21	0.7	7	0.2	30	1.0
フォ	0	0	0	0	0	0	5	0.17	2	0.07	7	0.2
インフォ	0	0	0	0	2	0.07	16	0.59	5	0.17	23	0.8
③ 疑問詞疑問文	2	0.07	1	0.03	1	0.03	0	0	0	0	4	0.14
(2) 要求文	23	0.8	1	0.03	4	0.14	12	0.4	2	0.07	42	1.5
(3) 呼びかけ	14	0.5	0	0	0	0	3	0.1	0	0	17	0.6
II 応答非要求文												
(1) あいづち	407	14.3	44	1.5	248	8.7	1010	35.5	129	4.5	1838	64.7

(注：％は談話中の応答詞総数2840に対する比率である。なお、フォーマル場面・インフォーマル場面の別は「そう」に必要な箇所のみ示した。)

表1は応答要求文・応答非要求文に対する「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」の出現数と対総数比（談話中の応答詞総数2840に対する比率）をまとめたものである。

以下表1に従って、談話中の「そう」の機能と条件・制約を考察する。「そう」は出現総数228、8.0%中、第1位はあいづちに（129、4.5%）、第2位は疑問文に対する応答（92、3.2%）に使われている。本稿では紙面の都合上、あいづちに使われる「そう」の考察は除外した。

2.1 疑問文に対する応答の「そう」

2.1.1 付加疑問文に対する応答の「そう」

「そう」は、応答要求文に対する応答としては、大部分が疑問文に対する応答に使われており、要求文に対して「そう」で応答する例は僅か2例のみ、呼びかけに対する応答は皆無であった。

「そう」の疑問文に対する応答（92、3.2%）としては、「ね」疑問文に対する応答が圧倒的に多い（55、1.9%）。上昇イントネーションを伴った「ね↑」はいわゆる英語の“Tag Question”（付加疑問）に相当する。「だろう（でしょう）↑」「じゃない↑」も上昇イントネーションを伴い、この付加疑問に似た形式をとる。そこで「ね」疑問文、「だろう」疑問文、「じゃない」疑問文を付加疑問文と呼ぶ。資料では、先行文が付加疑問文の場合には、「うん」の使用が最多であるが、「そう」の使用も「はい」や「ええ」より多い。特に「ね」疑問文に対する応答が多い。つまり、「そう」の現れやすい環境・条件としては、まず第1に先行文が付加疑問文、特に「ね」疑問文であるということが挙げられる。

付加疑問文に対する応答の「そう」とは次のようなものである。なお、[]内に発話者番号、世代、性別、場面、親疎関係の順で記した。また★は次の話者の発話の始まった時点を示し、→ ←は発話の重なりを示す。

3 たとえば、★ニューヨークに1週間、ちょうど1週間ね。

[16B30f→16E30f雑*]

→そうそう、それぐらいだったら、ちょうどいい←と思う。

[16E30f→16B30f雑*]

- 4 えーと、と、そうだけど、(うん inf(女))あの、なんてゆうか、取材の、カメラマン稿料に、類するほうだね↑

[03B40m→03A30f仕事普]

そう。

[03A30f→03B40m仕事普]

- 5 →で、あと、←ルビをふんないといけない★ですよね↑

[15A30f→15B50f会普]

→そう、←そう、そう。

[15B50f→15A30f会普]

- 6 結構おじいさん★とかもこーんなパフェなんか食べて★ますよね↑

[18C20f→18A40f雑疎]

→そう←、→そう←。〈間6秒〉

[18A40f→18C20f雑疎]

- 7 塾の先生でしょ↑

[15A30f→15E30f打親]

そう。

[15E30f→15A30f打親]

- 8 その人は[社名]の[名前]ちゃんに教わったんでしょ。

[11F20m→11A20f雑秦]

〈笑い・複〉

[多数→無し雑*]

そう。〈笑い〉

[11A20f→11F20m雑親]

そうそうそう。

[11A20f→11F20m雑親]

- 9 だから、答えだけ、★ちょっと隣の子の見たんじゃない。

[08A50f→08I30m雑普]

→そうそうそう、←あの一。

[08I30m→08A50f雑普]

- 10 それでカラーが進められ、たほうが、★いいんじゃない###。

[15D20f→15B50f会普]

→そう、だから←ここでは、も、いろんなこと(うん inf(女))試せてゆうのよね↑(うん 他者(女))、こっちでは。

[15B50f→15A30f会普]

付加疑問文は、相手に同意や確認を求め、相手の肯定的な応答を期待するものであるから、応答も同意や肯定の意味をもつ「はい、そうです」となるのが基本であると考えられる。いずれも相手に同意や確認を求める「(よ)ね」(例3～6)、「(ん)でしょ」(例7、8)、「んじゃない」(例9、10)を伴う疑問文に対して、「そう(そうそう)」で同意したり、肯定したりしている。

こうして自然談話の中の「そう」を観察すると、「そう」の典型的な機能は先行文に対する同意または肯定の応答であることがわかる。「そう」が同意応答、肯定応答の機能を最も発揮できるのは、こうした先行文が付加疑問文の場合であると言える。

また、同意や肯定の応答であるから、談話の中でも、次の11、12の例のように「ええ」「うん」と共に用いられている。

- 11 それで下がるってのはプラスマイナスの差が大きいでしょ。

[08A50f→08G40f相談普]

ええ、そう★です。

[08G40f→08A50f相談普]

- 12 うすーくやればいい★わけでしょ↑

[08I30m→08A50f雑普]

→うんうんうん←、そうそう★そうそう。

[08A50f→08I30m雑普]

従って、次のような付加疑問文に対する応答の「はい」「ええ」「うん」も、すべて「そう」で言い換えられる。

- 13 →いちお、←奨学金支給期間は12月までになってるわけだから、(はい inf(女))帰国は1月だね。

[14I40m→14H20f打普]

はい。

[14H20f→14I40m打普]

- 14 なんの花なの↑

[09F50m→09A30f雑親親]

これねー、うふ、待って、〈笑いながら〉あかめやなぎ。

[09A30f→09F50m雑親親]

あ、やなぎね↑

[09F50m→09A30f雑親親]

ええ。

[09A30f→09F50m雑親親]

15 カ、カフェオーレって、牛乳入ってるん★だよね↑

[19A40f→19B30f雑親親]

→うんうん。←

[19B30f→19A40f雑親親]

16 そうですか、いい子なんでしょ。

[09J60m→09A30f雑親]

うん、いい子。〈笑い〉

[09A30f→09J60m雑親]

17 だから形はちょうどいいんじゃない、うちなんか。

[15A30f→15E30f打親]

うん。

[15E30f→15A30f打親]

このように付加疑問文に対する応答は「はい」「ええ」「うん」「そう」が可能であるが、これらは場面や相手との関係等のあらたまり度や待遇度によって使い分けられる。資料の表1でも、「はい」や「ええ」がフォーマル場面のほうに、「うん」や「そう」が比較的インフォーマル場面のほうにという使い分けの傾向が見られる。

2.1.2 真偽疑問文に対する応答の「そう」

真偽疑問文に対する応答の「そう」(19、0.6%)は、「はい」(22、0.8%)や「ええ」(21、0.7%)とほぼ同じくらいの比率で使われている。真偽疑問文に対する応答は、そのことがらが真であれば「はい、そうです」と答える論理的な肯定応答である。

しかし、先述したように、「そう」は先行の真偽疑問文に全て応じることはできない。まず、「そう」で応じられる先行の真偽疑問文のタイプについて、実際の例で観察してみる。

18 あー、山のこのはこぞうですか↑

[15D20f→15B50f会*]

あ、そうそう、なんだ、なんだ。

[15B50f→15D20f会*]

19 あ、さんじゅー6歳でしたっけ。

[15A30f→15E30f打親]

そう、そう、そう、そう。

[15E30f→15A30f打親]

- 20 でも、あの一、やっぱり全部知っていたほうがね、(ええ 他者(女))
あの一、いいと思いますし、あの一、やっぱり、あの一、ずっと、
あの一、なんだっけ、長寿研だっけ。 [04A50f→04M40f打*]
はい、そうです。 [04M40f→04A50f打*]
- 21 これは、仮払いしてもらってないわけ。 [03B40m→03A30f打普]
そうそ、そう。 [03A30f→03B40m打普]
- 22 →グーグー←って感じ↑ [15A30f→15E30f打親]
そう、そう、そう。 [15E30f→15A30f打親]
- 23 無駄↑ [15A30f→15D20f雑親親]
そそそう。 [15D20f→15A30f雑親親]
- 24 あ、吉祥寺の↑ [10A40f→10E20f雑親]
そう、そう、★吉祥寺。 [10E20f→10A40f雑親]
- 25 ええ、[名前]ちゃんが↑ [10A40f→10C30m雑親親]
そう、あの人、毒持ってんからさ。 [10C30m→10A40f雑親親]
- 26 1時間半ってゆうのは1時間半動きっぱなしってゆう感じなんです
か↑ [15A30f→15B50f会普]
そう。 [15B50f→15A30f会普]
- 27 仲がいいほどけんかするの。 [13A20f→13C20f雑親親]
そう、お友達だって、###だからね一、そうね一、とかいってぱ一っ
と。 [13B20f→13C20f雑*]
- 28 けっこう重ね塗りってゆう★のかしら。 [19A40f→19B30f雑親親]
→そうそう←そうそうそう。 [19B30f→19A40f雑親親]

まず、「そう」で答えることができる真偽疑問文の典型的なタイプは、
例18～25のような名詞述語疑問文（(Nは)～Nですか）である。例18
「山のこのはこぞうですか↑」、例19「36歳でしたっけ」、例23「無駄↑」、
例24「吉祥寺の↑」に見るように、先行文が「Nですか」「Nでしたっけ」
「N（プラス助詞）↑」形式をとる名詞述語疑問文の場合には、「そう」で
答えることができる。これが日本語教育の初期の段階で導入されるタイプ

である。

次に、「そう」で応答できる真偽疑問文は、例26「動きっぱなしってゆう感じなんですか↑」、例27「けんかするの」、例28「重ね塗りってゆうのかしら」に見られるように、「～（の）んですか」「～の↑」「～のかしら」で表現されている「（の）んですか」疑問文である。先行文が「～（の）んですか」疑問文の場合も「そう」で応答できることがわかる。

従って、次の「はい」「ええ」「うん」で応答されているものも、先行文が名詞述語疑問文や「（の）んですか」疑問文であれば、「そう」による応答が可能となる。

29 4時↑ [10D40m打→10E20f*]

★はい。 [10E20f打→10D40m*]

30 井井最後にやったのもお、結局10000、番台って、1番最後の、例えば位置の1ですか。

[18A40f→18B30m相談普]

はい。 [18B30m→18A40f相談普]

31 で、何を作ったんですか↑ [18B30m→18C20f雑*]

わたしですかあ↑ [18C20f→18B30m雑*]

ええ。 [18B30m→18C20f雑*]

32 雛壇に、なら、並んでるんですか。 [04A50f→04F40m会親]

ええ。 [04F40m→04A50f会親]

33 これ一、こん、これで3本分だったんですか↑

[07A40f→07C30f相談親親]

うん。 [07C30f→07A40f相談親親]

34 あ、一緒に帰ってきたの↑ [10A40f→10C30m雑親親]

うん。 [10C30m→10A40f雑親親]

しかしながら、先行文が次のような真偽疑問文の場合には、「そう」では不自然である。

- 35 じゃ、ちょっと、なんか紙ある↑ [04A50f→04L30f指導親親]
はい。 [04L30f→04A50f指導親親]
- 36 それで一、あの一、今までや、やられた[社名]さんでの、(はい
 inf(女))なんかあの一、入稿からその一、色校だし会議後(ご)、最
 後までの、(ええ inf(女))あ、あのスケジュール表みたいのはなん
 か、参考まで、ございます↑ [03E40m→03A30f会疎疎]
えーと、はいはい。 [03A30f→03E40m会疎疎]
- 37 あっ、終わったら代わってくれる↑ [16A30f→16B30f雑親親]
あ、はい。 [16B30f→16A30f雑親親]
- 38 上野から電車乗る↑、地下鉄に一。 [08B40f→08A50f雑普]
うん。 [08A50f→08B40f雑普]
 乗る一↑ [08B40f→08A50f雑普]
うん。 [08A50f→08B40f雑普]

例35「紙ある↑」、例36「スケジュール表ございます↑」はあるものが存在するか否かを相手に問うている。37「代わってくれる↑」、例38「乗る↑」はある事態に対する相手の気持ち、意志を問うている。このように事態の存在の有無、あるいは事態に対する意志の有無を問う動詞述語文に対しては「はい」「ええ」「うん」で答えることができるが、「そう」では不自然となる。

2.2 要求文に対する応答

相手に依頼をしたり、相手の許可を求めたり、相手に誘いかけたりする要求文は、相手がその要求を受けてくれることを期待するものである。従って、要求文に対する応答は、基本的には「はい、わかりました」と了承を意味する応答となる。談話資料中でも圧倒的に「はい」が多い。

次のように先行文が依頼文あるいは勧誘、許可を求める文に対しては、「そう」による応答は不自然となる。

39 よろしく★お願いします。 [08M40m→08A50f打親]

→はい、←わかりました。 [08A50f→08M40m打親]

40 →ゆうことで、←あの一、委員をお引き受け(はい、はい inf(女))
いただければ、★ありがたいと思っております。〈笑い〉

[04M40f→04A50f打*]

→はい、はい、はい、←わかりました。 [04A50f→04M40f打*]

41 いちお、じゃあ、ありますからと、★〈笑い〉ご承知おきください。

[10A40f→10E20f打親]

→はい。←

[10E20f→10A40f打親]

42 二十分ぐらい、俺、ちょっと外出してきていい↑

[01D40m→01C30m雑*]

あつ、はい。

[01C30m→01D40m雑*]

43 じゃー、井井今日はちょっと100を選んでみま★しょうか。

[18B30m→18A40f相談普]

→ええ。←

[18A40f→18B30m相談普]

談話では先行文がこうした要求文の場合には「そう」は現れにくいようである。資料中の依頼文に対する「そう」2例中、1例が44のように「うん」を伴っての出現である。「そう」単独では不自然である。その他1例が45のように「ね」を伴う「そうですね」の形である。

44 あつ、ちょっと待って、数を★かぞえてえ。[19B30f→19A40f雑親親]

そー、うん。←〈笑い〉

[19A40f→19B30f雑親親]

45 ちょこちょこ、★お顔をだしてください。[09I30m→09J60m雑挨拶*]

→ええ、←そうですね。

[09J60m→09I30m雑挨拶*]

「そう」も「ね」を伴えば不自然ではない応答が談話中にいくつかある。
例えば、先行文が真偽疑問文であっても38のように相手の気持ちや意志を
問うもの、また要求文であっても例42、43、45のように相手の気持ち、意

志にそって依頼や勧誘、許可を求めるような発話の場合には「そうですね」「そうね」で応じられる。まず相手の発話に対して「そうですね」と応じて、相手に対する共感を示すのである。「ね」の付加によって、談話場面を相手と自分とが共有しているという姿勢が生まれるようである。このような「そうですね」は、相手の気持ちに共感を示す、いわば共感的応答と呼ぶことのできるものである。しかしまた、相手の発話を確かに受けたという意味にも解釈でき、「あいづち」との境界線上に位置しているとも言える。この「そうですね」（「そうですか」「そうですよ」等も同様）については談話の中でどのように機能しているか今後さらに検討すべき問題である。

2.3 呼びかけに対する応答

相手に名前を呼ばれたり、挨拶のことばをかけられたりする場合には、「はい」による応答が基本であろう。談話資料中でもこうした呼びかけに対する応答には、次のように「はい」が現れている。この呼びかけに対しては「そう」で答えることはできない。

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 46 [名字]さん。 | [07E30f→07A40f相談親親] |
| <u>はい</u> 。 | [07A40f→07E30f相談親親] |
| 47 ちょっと#####。 | [不明m→07A40f相談*] |
| <u>はいはい</u> 。 | [07A40f→不明m相談*] |
| 48 どうも、じゃあ、あの一、また。 | [09J60m→多数雑挨拶*] |
| <u>はい</u> 。 | [09I30m→09J60m雑挨拶*] |
| また、あの一、お元気で、★ほんとに。 | [09I30m→09J60m雑挨拶*] |
| → <u>はい</u> ←、ありがとうございます。 | [09J60m→09I30m雑挨拶*] |

3. おわりに

先行文が応答要求文の場合、「そう」による応答には次のような条件や制約があることが明らかになった。

(1) 先行文が付加疑問文の場合、「そう」による応答が自然であり、談話では「うん」に次いでよく使われている。

(2) 先行文が真偽疑問文の場合、名詞述語疑問文、「(の) んですか」疑問文であれば「そう」による応答ができるが、動詞述語疑問文の場合には「そう」による応答が不自然なものがある。

(3) 先行文が要求文、呼びかけの場合、「そう」による応答は不自然である。この場合「はい」が最もよく使われる。

参考文献

奥津敬一郎 (1989) 「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」『日本語学』8月号、明治書院 pp. 4—13

現代日本語研究会編 (1994) 『職場における女性の話しことば—自然談話録音資料に基づいて—』(財団法人東京女性財団1993年度研究報告書)

現代日本語研究会編 (1997) 『女性のことば・職場編』ひつじ書房

日向茂男 (1980) 「談話における「はい」と「ええ」の機能」(国立国語研究所報告65『研究報告集2』) pp. 215—229

中島悦子 (2001) 「自然談話における応答詞の使い分け—「はい」と「うん」、「いいえ」と「ううん」—」『国士館短期大学紀要』26号、国士館短期大学人文学会 pp. 21—45

(なかじま えつこ)